

11. 赤ちゃんを抱いて歩くとき、自分の足元に注意が必要です。

今まで簡単に通っていた所でも、赤ちゃんを抱いているときは足元が見えにくいので、ちょっとした段差や、カーペットがめくれている、床が滑りやすかったりするとつまずいて転倒する恐れがあります。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にぶつけてしまうので、赤ちゃんを抱いているときは注意して行動しましょう。



12. 赤ちゃんを抱いているとき、あわてて階段を降りない。

赤ちゃんを抱いているときは足元が見えにくいので、階段を降りるとき踏み外してしまったり、靴下やスリッパを履いていて滑って赤ちゃんを落としてしまう事故があります。階段などの高い場所からの転落は、重症な事故になりやすいので注意が必要です。階段のカーペットは毛足の短いものを使用し、市販のすべり止めを貼るものも手軽な安全対策です。ただし、極端に出張ると逆につまづく原因になります。

赤ちゃんを抱いているときは階段の上がり下りは慎重に行いましょう。



13. ドアを閉めるときは赤ちゃんの手の位置を確認する。

赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまう。ドアのすき間に指が入っているの知らずに勢いよく閉めてしまったり、開けておいたドアが風で急に閉まって指が挟まれてしまう事故があります。

ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認し、ドアを開けておくときは、ドアストッパーなどで固定しておきましょう。



14. 赤ちゃんをクーハン(かご)に寝かせて持ち上げるときは、両方の取っ手をしっかり握る。

クーハンの扱いに慣れてくると、取っ手を片方しか握っていないのに気づかず持ち上げて赤ちゃんを落としてしまったり、持ち運んでいるとき取っ手が取れて寝ている赤ちゃんが転落してしまう事故が起こっています。

赤ちゃんをクーハンに寝かせて持ち上げるときは、必ず両方の取っ手を握っているかを確認しましょう。



15. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようにしてある。

寝ている赤ちゃんの上に、テーブルの上の哺乳ビンが倒れてきたり、タンスの上の箱が落ちてきたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいるおもちゃが落ちてきた。上から落ちてきたものがあたり、打撲ややけどを負ってしまう事故があります。

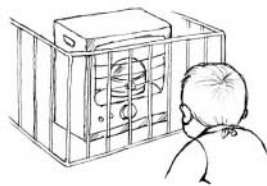
寝ている赤ちゃんの上には物が落ちてこないようにしておきましょう。



16. 赤ちゃんは暖房の熱が直接触れないように寝かせる。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。体温より少し高いくらいの温度でも、長時間あてたままにすると低温やけどを起こすことがあります。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせましょう。こたつや電気カーペットには長時間寝かせないようにしましょう。



17. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせてから寝かせましょう。

母乳やミルクを飲んだ後は、排気が十分でないと乳をもどしてしまい、吐いたものが気管に入ると窒息してしまいます。母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせてから寝かせ、寝かせてから10～15分は気をつけて見ているようにしましょう。



18. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードをしましょう。

ベビーベッドに寝かせようとした時に、のけぞってベッドの柵にぶつかったり、ミルクをあげようとして抱きかかえた時、急に頭を後屈してテーブルにぶつかったり、赤ちゃんはじっとしていません。

角のするどい家具やテーブルはクッション等でカバーし、赤ちゃんを抱いたりおぶったりする時は、まわりにぶつかる危険なところがないか、安全を確認してから行動を心がけましょう。



19. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物は置いておかない。

赤ちゃんは大人が口にくわえるタバコに興味があり、手の届くところにある物がつかめるようになると誤飲事故が多くなります。タバコや灰皿は必ず手の届かない所に置きましょう。

また、液体に溶けたニコチンは吸収が早く、一口飲んだだけでも危険なので、飲み残しの缶を灰皿代わりに使用するのはやめましょう。



20. 入浴中の赤ちゃんからは目を離さない。

授乳をしたり、オムツを取り替えたり、お母さんは睡眠不足です。赤ちゃんと一緒に風呂に入っていて、うたた寝をして赤ちゃんが湯船に沈んでしまったり、赤ちゃんをうつぶせにして洗っていたら、顔がお湯についていて溺れてしまうなどの事故が起こっています。

入浴中の赤ちゃんからは目を離さず、赤ちゃんを一人にして着替えと取りにいったり、電話に出たりするのはやめましょう。

